

令和元年度 石神井川・白子川生物調査の概要

1 調査概要

① 調査地点及び調査日時等

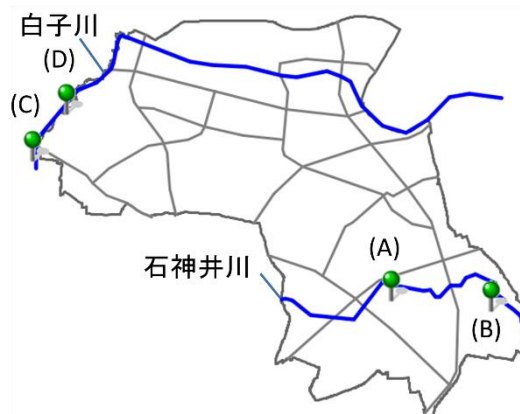
河川名	調査地点名	調査実施日	天候	気温(°C)	水温(°C)
石神井川	(A)久保田橋付近	2019/7/25 (木) 9:00~11:30	晴れ	27.5°C	24.0°C
	(B)緑橋付近	2019/7/25 (木) 12:30~15:30	晴れ	30.5°C	24.5°C
白子川	(C)東埼橋上流付近	2019/7/26 (金) 9:00~11:00	晴れ	27.0°C	25.5°C
	(D)白藤橋付近	2019/7/26 (金) 12:15~15:30	晴れ	27.0°C	25.8°C

② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影後、現地に放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。

なお、底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。



2 調査結果

① 河川状況

(A) 石神井川①久保田橋付近

河床全面に護床ブロックが設置され、一部には植生ブロックが水制状に設置されている。植生ブロックにより小規模な瀬と淵が形成されている。

カゴ網は久保田橋下流の植生ブロック脇などやや淵状になっている2箇所に設置した。



(B) 石神井川②緑橋付近

この付近は河道が蛇行しており、凸側に寄り州が形成されている。寄り州は砂で形成され、植生は前年度より少なくなっていた。河道の一部には深みがあり、水草が繁茂する場所もあった。

カゴ網は緑橋の上流のやや淵状になっている箇所と橋下の滞留部に計2箇所設置した。



(C) 白子川①東埼橋上流付近

東埼橋直下に S 型の淵があり、更にその下流に高い落差工がある。増水によりかなり水位が上昇しなければこの落差を魚類が遡上することは困難と考えられる。淵の上流は水際が綱矢板等で護岸され、河床が布型枠等で護床されている。カゴ網は子安橋の上・下流部で、やや淵状になっている2箇所に設置した。



(D) 白子川②白藤橋付近

河床はコンクリート張りであるが、白藤橋の下流約 100m の位置に土砂が堆積しており、浅い淵と瀬が形成されている。

カゴ網は白藤橋の下流のやや淵状になっている2箇所に設置した。



② 魚類調査結果

石神井川、白子川の4地点全体では、ニホンウナギ、コイ、アブラハヤ、タモロコ、ドジョウ、アユ、ヌマチチブなど、6目9科19種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2019」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、絶滅危惧Ⅱ類に該当するギバチ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RL2013 区部」に該当される種として、絶滅危惧ⅠA類に該当するギバチ、絶滅危惧Ⅱ類に該当するニホンウナギ、アブラハヤ、ヒガシシマドジョウ、留意種に該当するヌマチチブが確認された。

また、特定外来生物、生態系被害防止外来種リスト等に該当する外来種は確認されなかった。

No.	目名	科名	種名	石神井川		白子川		合計	環境省 RL 2019	東京都 RDB 2013 区部	外来種	
				① 久保田橋 付近	② 緑橋 付近	① 東崎橋 上流付近	② 白藤橋 付近					
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ				1	1	EN	VU		
2	コイ目	コイ科	コイ		1		20<	20				
3			アブラハヤ		59			59		VU		
4			ウグイ		1			1				
5			モツゴ	5	5			10				
6			タモロコ		1			1				
-			コイ科			1		1				
7		ドジョウ科	ドジョウ	1	1	5		7	NT			
8			ヒガシシマドジョウ	3	2	1		6		VU		
9	ナマズ目	ギギ科	ギバチ	1				1	VU	CR		
10	サケ目	アユ科	アユ				100<	100				
11	ボラ目	ボラ科	ボラ				6	6				
12	スズキ目	スズキ科	スズキ				1	1				
17		ハゼ科	スミウキゴリ			13		13				
18			ウキゴリ				1	1				
13			マハゼ				1	1				
15			シマヨシノボリ			3		3				
16			旧トウヨシノボリ類			2		2				
14			ヌマチチブ				100<	100		留		
19		タイワンドジョウ科	カムルチー				1	1				
	6目	9科	19種	種類数計	4	7	6	9	20	3	5	0
				個体数計	10	70	25	230	335			

・個体数計において“100<”は“100”、“20<”は“20”として加算。

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト2018」に従った。

○「環境省 RL2019」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2019年

絶滅危惧ⅠB類(EN):ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類(VU):絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

○「東京都 RL2013 区部」:レッドデータブック東京 2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版~ (2014年3月)

絶滅危惧ⅠA類(CR):ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧Ⅱ類(VU):現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

留意種(留):現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの(理由本文を要約)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省. に指定された種(2016)

③ 底生動物調査結果

白子川、石神井川の4地点全体では、モノアラガイ属、シマイシビル、カワリヌマエビ属、アメンボなど、6綱12目18科21種の底生動物が確認された。

出現種に、「環境省 RL2019」に該当している種はなかったが、「東京都 RL2013 区部」の留意種に該当する種として、モクスガニが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「緊急対策外来種」に該当する種としてアメリカザリガニが確認された

No.	目名	科名	種名	学名	石神井川		白子川		合計	環境省 RL2019	東京都 RDB 2013 区部	外来種	
					①久保田橋付近	②緑橋付近	①東崎橋上流付近	②白藤橋付近					
1	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマズムシ科	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>	1	3		4				
2	腹足綱	新生腹足目	カワニナ科	チリメンカワニナ	<i>Semisulcospira reiniana</i>			1	1				
3		汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ属	<i>Radix</i> sp.	3	17		20				
4	ミミズ綱	ツリミミズ目	ヒモミミズ科	ヤマトヒモミミズ	<i>Biwadrilus bathybates</i>	1	1		2				
5			ツリミミズ科	ツリミミズ科	Lumbricidae	1		1	2				
6			フトミミズ科	フトミミズ属	<i>Pheretima</i> sp.			2	2				
7	ヒル綱	吻蛭目	ヒラタビル科	ハバヒロビル	<i>Alboglossiphonia lata</i>	1	2		3				
8				ヘルベラ	<i>Helobdella stagnalis</i>	1	2		3				
9		吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	10	11	1	1	23			
10			ナガレビル科	ヌマイシビル	<i>Barbronia weberi</i>	1			1				
11	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Orangonyx floridanus</i>	4	6	2	12				
12		ワラジムシ目	ミズムシ科(甲)	ミズムシ(甲)	<i>Aseillus hilgendorfi</i>	2	9	1	12				
13		エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.	111	37	15	2	165			
14			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>			10	10			緊	
15			モクスガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	2			2			留	
16	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	サホコカゲロウ	<i>Baetis sahoensis</i>	1			1				
17				ウスイロフトヒゲコカゲロウ	<i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>	2			2				
18		カメムシ目(半翅目)	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	1	2	6	2	11			
19				ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>	1	2	1	4				
20		ハエ目(双翅目)	チョウバエ科	チョウバエ科	Psychodidae	1			1				
21			ユスリカ科	ユスリカ属	<i>Chironomus</i> sp.		1		1				
					種類数計	17	12	10	3	21	0	1	1
					個体数系	144	93	40	5	282			

注) 種数の合計は単純集計

○「環境省 RL2019」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2019年

○「東京都 RL2013 区部」:レッドデータブック東京 2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)

留意種(留):現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの(理由本文を要約)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省. に指定された種(2016)

緊急対策外来種(緊):対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある

経年変化について

魚類の確認状況について、石神井川では過年度にも比較的よく出現していたアブラハヤ、ドジョウの他、昨年度に続きタモロコ、ヒガシシマドジョウが確認されました。また、緑橋付近では、昨年度まで確認されたギバチが今年度は確認されませんでした。しかしながら、過去にあまり出現していないウグイが確認されました。

白子川ではスミウキゴリやヌマチチブなど、過年度に優占的に出現している種が確認されました。

各調査地点とも河川構造が概ね単純な3面張り護岸となっており、急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類や底生動物は逃げ場がなくなり、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることも考えられ、各調査地点の種数や個体数の変化は、増水の影響を多分に受けているものと思われる。

そのため、久保田橋付近に設置されている植生ブロックや各地点にある大小さまざまな寄り州、またはブロックのすき間、水草など、魚類や底生動物が逃げ場・隠れ場として利用できる環境が、現状より増加することが望まれる。

石神井川

石神井川①久保田橋付近

No.	種名	H14~20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	環境省	東京都	外来種
1	コイ	○														
2	オイカワ	○	1		7											
3	アブラハヤ		5		12			3		1	3	7				VU
4	マルタ								3							留
5	ウグイ						1			1	1					
6	モツゴ	○									1		5			
7	タモロコ	○					1				2	3				
8	ウグイ亜科(属)							1								
9	ドジョウ	○	4	11			2	3				52	1	NT		
10	ヒガシシマドジョウ*2										3	3	3			VU
11	ギバチ(属)*3		2					1				100<	1	VU		CR
12	ミナミメダカ	○									1			VU		CR+EN
13	旧トウヨシノボリ類*4		1	1			1									
14	ヨシノボリ属							2								
	種類数合計	6	5	2	2	0	4	5	1	2	6	5	4	3	5	0

石神井川②緑橋付近

No.	種名	H14~20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	環境省	東京都	外来種
1	コイ	○				1				1			1			
2	キンブナ	○												VU		CR+EN
3	フナ属(含金魚)	○	1			1					1					
4	ダニオ亜科	○														
5	オイカワ		1								2					
6	アブラハヤ	○	52				13	100<	4	20<	15	100<	59			VU
7	ウグイ	○											1			
8	モツゴ	○	5	6		2	9	2		1	5		5			
9	タモロコ										1	6	1			
10	ドジョウ	○	10	22	1	7	7	6	2		9	4	1	NT		
11	ヒガシシマドジョウ*2							1	1		3	4	2			VU
12	ギバチ(属)*3	○	1	3		10		1	2	1	3	6		VU		CR
13	ミナミメダカ										2			VU		CR+EN
14	旧トウヨシノボリ類*4	○	1	1												
15	ヨシノボリ属	○														
	種類数合計	11	7	4	1	5	3	5	4	4	9	5	7	4	5	0

○:過去調査において出現の記録があり。 H21年以降の数値は確認個体数

*1)過年度調査ではウナギとして記載あり

*2)過年度調査ではシマドジョウとして記載あり

*3)平成17年はギバチ属として表記

*4)旧トウヨシノボリ類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2018」に従った。過年度調査ではトウヨシノボリとして記載あり

環境省:「環境省RL2019」:環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2019年

EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧

東京都:「東京都RL2013区部」:レッドデータブック東京2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版~(2014年3月)

CR:絶滅危惧IA類 CR+EN:絶滅危惧I類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

・外来種は、以下に従った。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省。に指定された種(2017)

特:特定外来生物:外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

重:重点対策外来種 甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2018」に従った。

白子川

白子川①東埼橋上流付近

No.	種名	H14~20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	環境省	東京都	外来種
1	フナ属(含金魚)	○														
2	オイカワ	○														
3	アブラハヤ		1	1		3							1		VU	
4	モツゴ			6												
5	タモロコ		2	3			1			5						
6	ドジョウ	○	1	4	3	3	2	1	3	3	2	3	5	NT		
7	ヒガシシマドジョウ*2												1		VU	
8	シマヨシノボリ						2		2	2	6	2	2			
9	旧トウヨシノボリ類*4	○			2	2	4	5		2	8	3	3			
10	ヨシノボリ属				1											
11	スミウキゴリ	○	7	1	3	4	9	4	9	9	15	10	13			
12	ウキゴリ			1												
	種類数合計	5	4	6	4	4	5	3	3	5	4	4	6	1	2	0

白子川②白藤橋付近

No.	種名	H14~20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	環境省	東京都	外来種
1	ニホンウナギ*1	○	1		4	1		1	2	1		1	1	EN	VU	
2	コイ	○	100<	50<	20<	20<	20<	20<	20<	20<		20<	20<			
3	フナ属(含金魚)						1									
4	ダニオ亜科	○														
5	オイカワ	○	6	4	3											
6	アブラハヤ					1		2							VU	
7	マルタ	○	4		16	2	7	2	4		100<				留	
8	モツゴ	○			1						5					
9	タモロコ			1		1					5					
10	ニゴイ				9										NT	
11	ナマズ									1						
12	アユ	○	100<	100<	112	520	19	100<	100<	100<	4		100<			
13	カダヤシ	○														特、重
14	ミナミメダカ				1						4			VU	CR+EN	
15	ボラ	○	100<	100<	13	1	86		9	5	100<	100<	6			
16	スズキ	○				1				5		3	1			
17	スミウキゴリ	○				3	1	9	1		1	6				
18	ウキゴリ	○				5					1	2	1			
19	ウキゴリ属			2												
20	マハゼ	○		10	3	2	4	1		2	5	100<	1			
21	旧トウヨシノボリ類*4	○	1						2		8					
22	ヨシノボリ属			2												
23	ヌマチチブ	○	100<	100<	111	9	12	100<	100<	100<	100<	100<	100<		留	
24	チチブ属	○														
25	カムルチー												1			
	種類数合計	16	8	9	11	12	8	9	7	8	11	8	9	2	6	1

○: 過去調査において出現の記録があり。 H21年以降の数値は確認個体数

*1) 過年度調査ではウナギとして記載あり

*2) 過年度調査ではシマドジョウとして記載あり

*3) 平成17年はギバチ属として表記

*4) 旧トウヨシノボリ類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2018」に従った。 過年度調査ではトウヨシノボリとして記載あり

環境省: 「環境省RL2019」: 環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2019年

EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧

東京都: 「東京都RL2013区部」: レッドデータブック東京2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版~ (2014年3月)

CR: 絶滅危惧I A類 CR+EN: 絶滅危惧I類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 留: 留意種

・外来種は、以下に従った。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)

特: 特定外来生物: 外来生物(海外起源の外来種)であつて、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

重: 重点対策外来種 甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2018」に従った。

調査状況写真



カゴ網



投網



タモ網

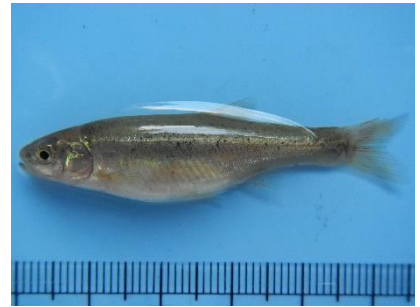
採取生物写真



ギバチ



ドジョウ



アブラハヤ



スミウキゴリ



ヒガシシマドジョウ



タモロコ



マハゼ



ウグイ



ウキゴリ



アメリカザリガニ



カワリヌマエビ属



モクズガニ

問い合わせ先：板橋区資源環境部環境政策課自然環境保全係 電話：03-3579-2593